



ホームページ「Chiaki's home」

独り言

2004 年

江見
千秋



表紙の「独り言」の書は、
「書道村」主宰の

川戸翠紫先生に書いていただきました。

新しい年に想う・・・

明けましておめでとーいになります。

「なんでだろー」の連続であった、2003年も終わり、新しい年2004年を迎えました。

年越しそばを口にし、除夜の鐘を聞きながらメールでの賀状を送信・・・

明けて、二宮海岸に**初日の出**を迎え、帰路川勾神社に**初詣**、帰宅してお屠蘇に雑煮、お屠蘇気分で年賀状を読む、そして寝正月の昼寝・・・毎年、変わらないが、これが僕の正月を感じ取る新年です。

3

日が暮れて朝が来る・・・何時もと変わらない時の流れですが、やはり元旦は大きなマイルストーンです。

毎年、この時、「**今年はどんな年かな？**」「**今年は何に力を入れようかな？**」等々・・・と、人並みに新しい年のことを思い浮かべるのです。

過ぎ去った過去は忘れ、今年は・・・今年もかな・・・マイペースで、ものを制作し、そして自分も楽しみながら少しはボランティアとして働きたいと思っています。

毎年思ってもなかなか満足できない「絵を描きたい」を、今年はどう少し真面目に取りくみたいと思います。

この「**独り言**」も、なんとか月2回のペースをまもり、また、

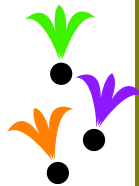
4

2004年版の冊子を作りたい・・・継続・・・これが、老化を遅らせる秘訣とも思っています。

七〇歳を間近にひかえた年になりましたが、マニユアル人間にならないよう、何事にも興味を持ち、あつちにウロウロ、こつちにウロウロしながらも、澄んだ青空のような毎日が送れるよう願っています。

「思つてばかりでなく、**実行しよう!**」の気持ちに切り替え、いざスタート!

今年もよろしく願っています。



乗客一人の路線バス

2004.1.20

先日の成人の日に急用ができ、新幹線と高速バスを利用して帰省しました。

連休の祝日といいながら、新幹線はガラガラでした。さらに、新大阪から利用した、2時間あまりの中国自動車道を走る高速バスのお客は僕一人でした。それにもかかわらず、同ダイヤには、バックアップのバスが1台、それも数人の乗客を乗せて後についていました。

運転手に「こんなに乗客が少ないのに、どうして2台も走るのか?」と尋ねたら、「帰りの乗客が多くなる予想だから」とのこと・・・。

中国自動車道を走る車も少なく、バスは順調に走り、途中3、4箇所のバス停にも数分早く着き、時間待ちをしていました。

バスに乗っている2時間あまりに思ったことは・・・便利なことはいいいことだが、何と無駄なことか・・・と。

道路を作る、作らない・・・と政治の世界で揉めているが、政治家はこの状況をどう見ているのだろうか？

新聞やTVでは、道路族となんとか委員会の「作る、作らない」のバトルだけの報道が目につくが、その必要性、需要はどうか？についてはほとんど説明されていない。

年末年始、お盆時期の渋滞の報道は繰返されるが、閑散期のガラガラな状況はほとんど報道されない・・・。

よく、箱物だけ作り、何に使うかは、その後とよく言われるが、本当は逆ではないだろうか？

何をするために、設備を作る・・・「**何をするため！**」が解らなくて、設備は計画できないはず・・・

「**何をするため！**」・・・が、いわゆる需要予測と思うのです。

「箱」が小さいと不便さも味わいますが、それも計画時点で解れば、利用者側も我慢することができると思うのです。

このように、中身を考えないで、いわゆる「箱」を作る話が、あまりにも多い気がします。

「箱」でなくても「組織」を作って、その後「**何をする？**」の話もよく聞きますが、やはり「**何をする？**」が始めに有りきと思

ます。

「鶏と卵」的な話だとは思いますが、本当に目的とする「何を
する？」を考えれば、後でこんな筈ではなかった・・・にならない
と思います。

何事も、**まず事前によく考えよう！**に心がけたいものです。



一滴にも目が欲しい！？

2004. 2. 2

ある時、友人との会話で、「**一滴**」ということばを使いました。
この時は「チョットしたこと」の例えのつもりでしたが、友人か
ら「大河の一滴」の話聞き、五木寛之著「大河の一滴」を読み
はじめました。

読み始めると、『「人は大河の一滴」 それは小さな一滴の水の
粒にすぎないが、大きな水の流れをかたちづくる一滴であり、永
遠の時間に向かって動いてゆくリズムなのだと、川の流れを眺め
ながら私にはごく自然にそう感じられるのだった。』という一節
に出会いました。

この気持ちに同感するのですが、ちょっとつけ加えるならば、「一滴にも目が欲しい！」です。

「大きな水の流れをかたちづくる一滴」に変わらないが、流れに身を任せながらも、周りを見回し、今自分の周りで起こっていることを会得ながら動いて行きたいからです。

周囲には、見たくないようなイヤなことが多いかもしれませんが、ホット心を和ませてくれることもあるはずです。

できうれば、一滴の水の粒ではあるが、チョット身を振って、ホットする方向に動きたいとも思います。

目でなくても、肌で感じるのでもよいかもしれません。とにかく、自分の殻に閉じこもっているのではなく、周りの水の粒がどのように動いているかを、自分なりに読み取り、同時に水の流れだけでなく、水面の空気も、川底の砂の感触も自分の感覚で取込みながら、永遠の時間に向かって動いて行きたい（生きたい）ものです。

多くの水の粒がそうすることによって、川の流れも清流になり大海に流れ込むと思うのです。



子ども達は元気！

2004. 2. 20

このページで紹介しましたように、今年に入り、小学生を対象にしたボランティア活動として、**パソコンの授業協力やむかし遊び**の催しに参加しました。

パソコンの授業は6年生を対象にしたものであり、**むかし遊び**は1年生を対象にしたものでした。

時間的には、それぞれ2時間くらいのものでしたが、ともに大人たちが元気を貰うような場面が多々ありました。

よく、「今の子どもは元気が無い」とか「友達と遊ぶのが苦手だ」といったことを耳にすることがありますが、今回短い時

13

間ながらも一緒にすごした子ども達には、そんな感じは全然受けませんでした。

パソコンの授業では、想像していた以上に、全員が課題（名刺作りやインターネットを使つての調査とその結果のまとめ）をこなしていました。多少不得意な子には得意な子が協力して、終わる頃には、みんなが作品を「できた！」と見せ合っていました。2月の下旬にある、5年生を対象にした**パソコンの授業**を楽しみにしています。

むかし遊びも、「それはこうするんだ！」とか「できた！」とか、お互いに見せ合いながら、教えあいながら、お互いに遊びを楽しんでいました。それに、時節柄ではあるが、自分の子ど

14

もの頃にそうであったように、鼻水も気にしないで走り回っていました。

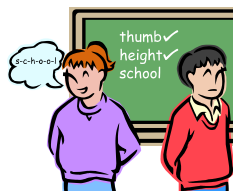
自分も子どもにタイムスリップしたような一時でした。

たしかに、朝の登校時などに、無口でうつむいて元気がないような姿を見かけることがありましたが、こちらから「おはよう！」と声をかけるようにすると、そのうちに、子ども達の方から「おはよう！」の聲が帰ってくるようになりました。

とにかく、子ども達も、大人から声を掛けられるのを待っているようです。

「親の背を見て子は育つ！」ということを思い出しましたが、

「大人の背を見て子ども達は育ってゆく！」・・・とにかく「大人がしっかり手本にならなくちゃ・・・」と再確認した次第です。
子ども達と競いあつて、毎日を楽しく送りたいものです。



今のパソコンは、機能がありすぎ！？

2004.3.5

今のパソコンには、機能がありすぎるのではないだろうか？
パソコンの相談を受けていると、よく「××の表示がなくなつた・・・」「講習会で習った、××ボタンが見当たらない・・・」「パソコンを新しく購入したら、以前の画面と違う・・・」などなどの質問を受けることが多くあります。

確かに、パソコンは日進月歩で性能だけでなく、新しい機能が増え、使用者のにとって便利にはなっているように思えるが、本当にそうだろうか？？

17

道具として、自分に便利なように画面などを変える・・・カスタマイズする・・・ことができるのはよいことではあるが、パソコン（特にソフトウエア）がこれでもかコレデモかと、使用する者が知らないうちに変わって行くのはどうかと思う。

道具は、作業する者が自分の仕事のしやすいように、自分で作る・・・これも、カスタマイズだと思う・・・が、自分の意思とは違うところで、その作り方が変わってくるのは、道具を自分のものするのに時間が掛かる。

少なくとも、今まで自分で作った延長線上で、改良できることが必要と思うのです。

18

説明書などには、「ここが新しくなった!」「ここが便利になった!」などと書かれているが、単にパソコンを新しくした、新しい使い方(プログラム)を覚えてきた人にとって、今までとチョットでも違いがあると、その点に一呼吸する必要がある、邪魔になるような気がします。

このようなことを言っても、自分で企画・設計しているわけなので、できるだけ新しい機能を勉強し、自分で以前のものとの違いを知り、新旧の懸橋を作っていくしかないようです。



うれしい札状

2004. 3. 20

以前このページで、小学校のいろいろな催しに参加することを紹介しましたが、その時一緒に楽しんだ子ども達からうれしい札状を貰いました。

「むかし遊び」を楽しんだ、1年生からは「**むかし遊びの名人さん**」へといった、消しゴムの跡も残り、たどたどしいながらも一生懸命書いた心のこもった札状でした。

「**パソコン授業**」に協力をした、6年生からは、各組の代表の児童から「先日はありがとうございました。各組を代表して、

お礼を書きました。」と、授業の感想とお礼の言葉などを、上手な文字で書いた礼状を、手作りの表紙で装丁したものを手渡してくれました。

また、5年生は、習ったパソコンで作った各人の礼状でした。背景にイラストを取り入れ、字体もそれぞれ工夫し、構成も横書きあり、縦書きありで、教えた方もビックリするようなできました。

これらには、先生方の助言があったことと思うが、内容的には子ども達が一生懸命書いた様子が滲み出していました。

本当に **うれしい礼状**です。

このような頂き物は、プレゼントを貰ったのとまた一味違い、本当にうれしいものです。

子ども達には、このような習慣を何時までも忘れないでほしいものです。

自分は、おうおうにしてテレが先立ちできないことが多いいが、見習いたいものである。



最近、「自動車のハブ」「鳥インフルエンザ」「回転ドア」など、多くの事件が起こっている。

これらは、失敗を教訓とせず、逆に保身のため失敗を隠して、人の死まで招いたような事件である。

関係者は、諺の「**頭隠して尻隠さず**」を知らなかっただろうか？・・・まあ、諺を知らなかったとしても、少なくとも失敗が生かされていないのは明確である。

最近、このような目の先だけを考えた行動が多すぎるように思う。責任ある政治家も「1年先のことは解らない！」と言い切る

ような世の中である。困ったものである。

なぜこのようなことが続くのだろうか？・・・あまりにも個人主義的で、また視野が狭くなっているからだろう・・・

「自分だけが今なんとかなれば、後はなんとかなるだろう」で日を送っているのではないだろうか？

それに輪をかけ、マスコミが考えも無いままに重箱の隅を穿るような、興味本位の報道だけをし、失敗をどの様に再発防止に役立てるかをほとんど言っていないように思われる。

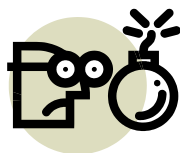
物事を進めるうえで、失敗は避けられないと思う。

”**失敗は成功の基**” という諺があるように、失敗を直ちに反

省し、再度繰返さないようにすることが成功への道のはずである。この過程は、自分だけが行うのではなく、いち早く「××してはダメだ！」と世の中に知らしめるのも、当事者の責任である。

世の中に緊張感が少なくなっではいけないだろうか？

緊張の連続では身が持たないが、何か変化があれば緊張し、解決すれば気分的にも休憩といった、山あり谷ありの生活が望ましいように思う。



暗闇は本当に怖い！

2004.4.20

先日の、イラクでの日本人拘束事件の報道を見ていて、「**暗闇は本当に怖い！**」ことを、改めて痛感しました。

ここで言う、「**暗闇**」とは、「**状況がまったく解らない**」ことです。

情報の洪水と言われている昨今で、知りたい相手の状況が解らない・・・拘束された人は、目隠しされて犯人の行動が解らない、拘束されている人を心配する家族、国民は、拘束されている状況が解らない・・・お互い、疑心暗鬼で想像するしか方法が無かったです。

幸いに、無事開放されてよかった。

無事開放されたのも、暗闇の中ながら、拘束された人や家族、国民が、犯人および犯人と情報交換が可能な人たちに、懸命に自分達の情報を送ったことも幸いしたのではないかと思います。

「便りの無いのは、良い便り」ということもあります、ただいろいろな人々と関係し、いろいろな情報が飛び交っている昨今では、そうも言っておられないのではないかと思います。

相手を信頼していないわけではないが、問いかけた相手から返事が無いときや情報のやり取りが少なくなった時は、やはり

27

心配になるものです。

道に外灯が点いており、すれ違う人の顔が見えると、初対面の人でもあまり怖くないものです。これが「暗闇」だとそうではないはずです。

情報交換ができ、状況が解ることは、これと同じことだと思います。

とにかく「暗闇」を作らないようにして、出会う人たちと気楽に情報交換し、お互い心配しない毎日を送りたいものです。

28



自分のことは棚に上げ・・・

2004.5.5

大量破壊兵器を持っている大国が、他国が兵器を持つのがケシカランと兵器を構えて脅す、自分は年金未納の政治家が年金制度を議論する、イラクで拘束されたボランティアやジャーナリストに「自業自得」と言う政治家（これで政治家だろうか？）・・・といったように解釈すればよいのだろうか？

「自分のことは棚に上げ・・・」的な話があまりにも多すぎる！

自分の考えを人に披露するのは悪いことではないと思うが、

29

自分の言うことを聞けと主張しながら、自分ではそれをまもっていないのは、どうかと思う。

一方、自分のできることだけしか言わないのは、自分の殻から出ることができず、世の中の進歩を妨げることにもなり、これもあまり良いことではないと思う。

しかし、「**自分のことは棚に上げ・・・**」的な自分勝手なことはただけない。

自分の考えを主張することも必要だが、自分の行動がそれに沿っているかをチェックすることが必要だし、そうしないと相手は自分の主張を聞いてくれないと思う。聞いてもらえないだけでなく自分自身「**天に唾す**」ことになる。

30

最近参加しているボランティア活動も、ボランティア活動の主旨が「自発性」「主体的」なものであるから、自分を振り返りながら活動することが特に大切と思う。そうしないと、やはり自分自身「**天に唾す**」ことになる恐れがある。気を付けよう！

物事を進めるときには、「猪突猛進」的なことも必要だが、時には立ち止まって、**これで良いのかな？自分はどうか？**と振り返ることも必要だし、そうしたいものです。



「いっしょにさー」より「なぜいっしょするか？」

2004.5.20

ボランティア活動の一つとして参加しているパソコン講習会の講師をしていて気付いたことです・・・

それは、サラリーマン時代に、ある端末機器を設計し、お客さんに使用方法を教えていた時のことです。

操作方法として「**こうしなさい！**」的なことは、テキストに詳細に書き、講習会でも説明したが、時々ミスが出て、その再操作に手間取ることがありました。

ある時、受講されている方から、「**なぜそうしなければいけ**

ないの？」と聞かれ、その理由を説明しました。そうすると、そのミスはほとんど無くなりました。

この経験から、物事を理解するのは、単に手順を知るだけでなく、その理由を理解すること・・・「こうしなさい！」より「なぜこうするか？」・・・が大切であることを知ったのです。

パソコン講習会でも、「こうしなさい！」だけで操作を説明するだけでなく、「なぜこうするか？」を交え説明した方が、他の操作への応用動作も含め、理解が早いようです。

同じようなことですが、便利ではあるが応用動作的な操作

を説明するよりは、まず**基本的な**操作を説明し、その後こんな方法もある旨説明した方が効果があるように思えます。

「**なぜだろう？**」を忘れず、**基本を実践で身につけ**、その上で便利な応用動作を**生活の知恵**として考えたいものです。



命の尊さ・・・

2004.6.5

小学校で、同級生の命を奪うという、非常に悲惨な事件が起きた！

被害にあった児童、家族には本当に悲しい出来事です。

一方、加害者の児童も、一時の間違った行為で、これから大きな荷物を背負うことになります。

なぜこんなことになったのだろうか？

事件が起こってから、各種報道で、「命の尊さ」をどう教えるか？子供には自由にカッターを持たせない！インターネットの使

35

い方を教えずには・・・などの話題が沸騰しています。こんなことで、事件の再発は防げるのだろうか？・・・

子ども達も毎日目にするテレビや新聞では、イラクの戦争、殺人事件の報道などが報じられ、戦争映画や格闘のゲームが、これでもか・コレデモかと蔓延っている。

各種報道もゲームも仕方ないとは思いますが、ほとんどの報道や格闘ゲーム（自分がしないで詳しくは判らないが）に、こんなことをするのは悪いことだと「命の尊さ・・・」を訴える文節は見られない。それどころか、ワイドショー的な番組では、犯罪のカラクリが、あたかも見てきたように解説されている。

36

子ども達も(大人でもあるが)、もちろん「命の尊さ」は知っているはずである。

しかし、自分が追い詰められたとき、「命の尊さ」という抽象的な気持ちをごどこかに置き忘れ、毎日目にする戦争や殺人事件のことが頭に浮かび、自分も・・・ということになってはいないだろうか？

一方では、刃物を持つことを避けるように育てられている子ども達は、ナイフなどで自分が怪我をした経験が少ないのではないだろうか？

怪我をして痛さを知り、血が出てこれは大変だ！といった経験が無いと、本当のナイフの怖さが分からないように思います。

小学校の頃ナイフ(肥後守)を買ってもらい、鉛筆を削ったり、

工作をしたり・・・その間に指を切ったりしたことを思い出します。高学年になって早く「切り出しナイフ」を持ちたいと、先輩の持つ尖ったナイフを羨ましく思ったものです。

「命の尊さ」という抽象的な話でなく、戦争や殺人の報道に、「このように、自分が傷つけられたり、殺されたくないだろう！・・・だから、人を傷つけ、殺すことをしてはいけないんだ！」と、なぜ付け加えないんだろう？

そのようなことが話題になったら、僕はそう付け加えたいと思います。



子ども達は大人を見ている・・・

32004.6.20

最近、ボランティア活動で、小学校の子ども達に工作やパソコンを教える機会がありました。

子ども達はこちらの言うことを真剣に聞いて、素直に楽しんでくれました。

その場に行く前に、新聞などの報道を見ると、**大人は子どもの良い手本だろうか？**と疑うようなことが、毎日のように報じられています。

39

子ども達は大人を見ています！

最も手本となるべきと思う国会の委員会で、予定されていた質疑を打切ってしまう、最も守るべき法律である憲法にも関係するような、自衛隊の多国籍軍への参加について、指揮権云々の言葉遊びがされている、事故が発生してすぐ警察や行政が原因を見抜くべきなのに、今になって、自動車のリコール問題が話題になっている・・・等々、このようなことを、大人は子ども達に如何説明するのだろうか？

大人は、又かと諦めムードで見ているが、子ども達はそうは考えないと思う。

40

これで良いのだと思ってしまうのか心配です。誰かが、これはダメなことだと説明する必要がある。まず当事者が説明する責任があると思うのだが、その気配はゼンゼン見られない。

一方では、教育基本法の改定が議論されているようだが、子ども達が大人のすることを真似ても恥ずかしくない行動を、大人がすることが先決と思う。法律を議論する前にまづ手本になることだと思います。

大人は大人、子どもは子どもでなく、すべて同じ社会で生活しているのです。子ども達をよく育てるのも、悪くするのも、すべて大人の責任です。

大人が子どもの良い手本になることがまず必要！

短時間ではあるが、子ども達と接してみて、このことをつくづく感じました。



以前にも、同じようなことを呟いたと思いますが・・・また、同じような**至福のひと時**を感じ、呟いてみました。

それは、梅雨の合間の晴れた午後、生い茂った庭木の剪定に汗を流し、その後シャワーを浴び、オンザロックのコップを片手に、狭いながらも我庭に置いたデッキチェアに長くなり、青空を背景に今剪定した庭木を眺めたときです。

これが「**至福のひと時**」と言うんだな・・・と思うのです。

「**至福**」を、「広辞苑」で引くと、一言「**この上ない幸福**」とある。

「**幸福**」は、ひと時感じるものではないと思う・・・であれば、「**至福**」もひと時であって欲しくない。

しかし、オンザロックの氷も解け、何杯目かのお替りを取りに行く頃には、回りも暗くなり屋内に引き揚げると、TVが、至福とは正反対のようなニュースを流している。これが現実なのだ・・・「**至福のひと時**」は、どっかに飛んで行っている。やはり「**幸福**」には、縁遠い世の中だと、これまた思うひと時です。

早朝、同じようにデッキチェアに長くなり、コップでなく、朝刊を手には、昨日と同様な気分になるか試してみました。

気持ちにはよかったが、残念ながら「**至福**」の気分にはなれま

せんでした。コップの有無に関係あるかもしれませんが、むしろ新聞のニュースが影響しているようです。世の中は、やはり「幸福」には縁遠いようです。

何時でも、「至福のひと時」を感じるような世の中でありたいものです。

できれば、コップを手にしない「休肝日」にも、そう感じたいものです。・・・無理かな？・・・



45

暑中お見舞い申し上げます！

梅雨明けが待てないように、**暑いアツイ**の毎日が続いております。

「暑いですネ〜」の悲鳴、「夏だから！」の諦め声・・・

「独り言」も、脳味噌が沸騰しているのか？「**暑い！アツイ！**」を呟くのがヤットで、夏休み状態です。

それにしても、関東以西は雨が少ないというのに、新潟、福井方面は集中豪雨・・・

46

TVを見ているだけでもこれは大変と思いながら、なぜ世の中はこんなにアンバランスなんだろうと考えてしまうのです。人間様の我俣を、自然が我慢できなくなっているのかもしれない。

各種報道には、現象の解説は満載ですが、「ではこうしましょう！」の対応策はほとんどありません。汗を流しながらでも、もう少し自然と仲良く過ごしたいと思うのですが、よい方法を思いついたら教えてください。

当分この暑さが続くと思われるので、気持ちだけでも暑さに負けないようにして、夏をやり過ごしましょう！！

改めて

暑中お見舞い申し上げます！

2004年盛夏



7月は、とにかく暑かった・・・

東京でも、39.5℃の観測開始以来はじめての気温を記録するなど、関東各地で観察史上初めての気温を記録している。また、20日間の連続真夏日。この100年で東京の平均気温は3度も上がったといわれている。

一方、新潟、福井では、今までに経験の無いような局部的雨量に見舞われ、大きな被害がでた。

台風も、従来に無いようなルートで日本を襲った。

データを更新することは一般にあることだが、このよう

な更新はありがたくない。

それも「**地球温暖化**」が言われだしてかなりの年月が経過するが、その対策がされないまま、このようなデータの更新では、人間の努力の無さをあらわすようなもので、真に残念である。

「**地球温暖化**」はこのような時には話題になるが、普段は「そのようだね！」で終わっていないだろうか。

暑いといってクーラーを利かせる・・・渋滞を気にしながらも自動車で海、山に出かける・・・これらが「**地球温暖化**」の原因になっていることは知っているが、少なくともない。

自分も理窟は知っているが、暑いといってクーラーを利かせる・・・「**地球温暖化**」の悪循環にはまっている・・・

これでは、こんな「独り言」を言う資格が無いのだが、この暑さに、つい負けてしまう。

早く秋が来ないかと願いながら、日陰にデッキチエアーを持ち回り、恨めしそうに入道雲を眺めている今日このごろです。

まだ残暑が残っているよう・・・風鈴の短冊に「**地球温暖化対策は？**」とでも書いて提げておくことにでもしようか？・・・な。しかし、これでは何の役にもたたない・・・せめて風鈴の音を耳にして、クーラーの音をさせないようにしたい。



携帯電話はボケ防止？！

2004.9.5

お盆に帰省した際、持っていた携帯電話を水に泳がし？、ダメしてしまった。

そのため、この際とばかりにカメラ付の携帯電話を新調した。

早速写真をと、喜び勇んで手に取ったが、使い方がチンプンカンプン・・・では、「取扱説明書」をと手に取ったらこれが何と！600ページ余り・・・ボリュームを見ると、本体の6倍くらいもある。その他にメールなどの説明書がある。

「取扱説明書」のページをめくり、想像を働かせながら、

慣れない指を動かす・・・

いやはや、大変な代物である！こんな小さい物に、よくもこんなに機能が詰められたものと感じする。

改めて、カタログを見ると、主な機能だけで、24項目も列記してある。はじめてお目にかかる言葉も沢山並んでいる。

一つ一つ操作をしてみるが、そのそばから一つ一つ忘れて行く・・・自分にとっては、まだ日常使用する道具とはいえないので、忘れるのもやむをえないかもしれない。

しかし、これは**ボケ防止**にはもってこいのオモチャ？のようだ・・・指先を動かす・絵文字を見て判断する・友達とメー

ル交換をする・急ぐときは話もする・インターネットで情報をキヤッチする・面白いものがあると写真に撮る・・・などなど
肩が凝り・目がかすむが、指先を動かし・脳味噌を掻き混ぜる・・・
コミュニケーションの道具というより**ボケ防止**の道具にもってこいのようなのである。

自分では、まだ**ボケる年**ではないと思っているが、そうならない間に、この携帯オモチャ？を自由に操り、ボケを退けたいものである。

ただ、この優れものも、水には弱いらしく、水浴びをするとうぐ昇天してしまう。

2度とそうならないよう大切にし、**ボケ防止**に役立てたいと思います。



55

自然の営み・・・

2004.9.20

僕だけかも分かりませんが、「**自然の営み・・・**」という言葉
を聞くと、それはなんだか癒されるような言葉に思えます。

僕が、**自然**⇨**野山**を思い浮かべるからかもしれない。

しかし、今年が多いといわれる台風も**自然の営み**です。台風の
被害などを知ると、その**自然の営み**は癒されるような言葉には結
びつきません。

人間も、自然界にお世話になっている一員のはずですが、**人間**
の営みが**自然の営み**に入っているだろうかと思うと、少し心細く
なります。少なくとも**人間**は**自然**の一員であることには間違

56

いないはず。

しかし現状は、地球が蓄えた石油を搾り取り、それを消費することにより自然界の温度を上げ、自分で自分が首を絞めているような状況にあるのではないでしょうか？さらには、それらを使って戦争をしている。自然も壊している。

人間は自然にこのことを、どの様に弁明すればよいのでしょうか？

台風や地震、雷・・・などなど、**人間**が相手にできない**自然の営み**が沢山あります。

しかし、これらも、**人間**をいじめてやろうと思つてやって来るものではないはずです。であれば、それが行き去るまで、戦争

は止め、金儲けも一時休戦し、**人間**同士が助け合い、やり過ごすしか方法はないのでは・・・と思うのです。

熊の被害も、近年多くなつたと報道されていますが、これも**人間が自然の営み**にそぐわないことをしていることが原因で、熊の住処（山）が荒れ、食料が不足しているか・・・もしくは、**人間**だけが美味しいものを食べているから、自分も仲間にして欲しいとやって来るからではないでしょうか？

手遅れかも知れないが、もう少し人類全員が自然を見直し、**明日はよろしく！**とお願いしたいものです。



この「Chiaki's home」ホームページを開設して6年半になり、その間この「独り言」も月2回の更新のつどいたい書いてきました。

思うままのことを書いているのですが、時には「何を書こうかな・・・」と焦ることもあります。特に、更新予定の日が迫ってくるとその焦りがつのってきます。今回がその状態のようです。

こんな時、目的もなく、図書館か書店の書棚を眺めに行きます。何か脳味噌を刺激してくれるものが無いかといった気持ちかも知りません。

今回も、書店を眺めて来ました。

目を留め、手に入ってきたのは、今月からNHKの「人間講座」番組で放送される、案野光雅氏の「絵とイマジネーション」というテキストでした。放送はこれからであり、まだ読んでいないので、脳味噌の刺激までには到っていません。

ただ、「はじめに」に、こんなことが書いてありました。

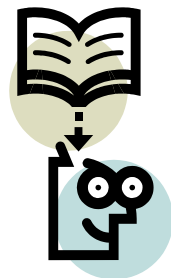
『野球でも、競馬でも好きな人は自分の考えを持っています。この「自分の言葉」というところが大切で、間違ったり理論的に矛盾のある感じ方でも、受け売りでなかったらいいかなと思います。』

これは、まだ斜め読みで、前後の文脈を加味して解釈しなければならぬと思いますが、この「独り言」ページに思ったこと

を書くのを応援してくれているよに感じました。
逆に、自分が「自分の言葉」で話すほど好きなものは何だろう？
と考え直す機会にもなりました。

「絵とイマジネーション」の番組を見ながら、改めて「自分の言葉」は何だろう？を探したいとも思います。

ただ、この番組は夜遅く、再放送も早朝なので・・・頑張らなくちやく！・・・といった気持ちです。



台風と熊のあたり年

2004.10.20

今年は、多くの**台風**が襲ってきている・・・それに関係があるのかどうか解らないが、これまた多くの**熊**が人里に現れている。

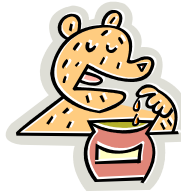
我家も、先日の**台風**の洗礼を受けた。幸い被害は無かったが、かなりの風に見舞われた。

田舎の家も、裏庭の柿を食べに**熊**が出てきているとの連絡が入った。また、田舎の隣町では、**熊**を獲ったとTVのニュースで報じられていた。

台風で、**熊**の好物の木の実が落ちてしまうなど、山に餌が

少なくなったから、**熊**が餌を求めて人里に出てくる・・・来て見れば、人間様を作ったり捨てた美味しい食べ物がある・・・これはシメシメと沢山出てくる。そこで、人と出くわしトラブルとなる。人も**熊**も被害者・・・願わくば「**熊**にまたがり、お馬の稽古・・・」と仲良くしたいがそうも行かない。

台風が人里を直撃するのは、まだ人がコントロールできない自然現象であるが、**熊**とは何とか仲良く共存できないかと思う今日この頃です。



人は、間違え・忘れる・・・が前提！

2004.11.5

今年は、多くの台風の上陸を受け、その上新潟中越地震と続き、例年になく災害に見舞われ、多くの被害が発生しています。災害を受けられた方々に、心よりお見舞い申し上げます。

TVや新聞を見ていると、「避難勧告」「避難指示」など、あるいは道路が使用できない場合の「通行止め」などの指示が遅れたとか無かった・・・などの報道が見受けられます。

突然の地震などは仕方ないとしても、余震の発生予測、降雨による崖崩れや洪水の発生予測などは、それらを観測している部署から、それらのデータを解析して、災害の発生が予測される

地域に、避難が出来る時間を勘案して伝達することがもつとも重要なことです。

伝達とは、運動会のリレーのようなもので、巧くバトン繋がってこそいい成績が出るものなのです。

しかし、残念ながらその伝達を送れ、避難が出来なかったような事態が散見されます。

このようなことは「**人は、間違え・忘れる・・・が前提!**」であること考えないで、一つのルートしか想定してはなく、また、伝達が届いたかの確認の手段も持っていなかったからではないかと思えます。

残念ながら「**人は、間違え・忘れる・・・**」から免れないのです。

特に、例年にならない台風や地震に遭遇したような緊急時に、暴走しがちな脳味噌をカバーし、必要な情報をリレー伝達するのは、伝達の2，3重のルートや届いたかどうかの確認手段が欠かせないと思うのです。

年を取り、それでもなくとも**間違え・忘れる・・・**が多くなるので、言いつばなしでなく、大切なことは、多少相手に迷惑をかけるかもしれませんが、その都度確認をとるようにしたいと思えます。

ブログで「独り言」

2004.11.20

今月の初めより、NHKの番組「趣味悠々」で「ホームページをつくろう」という講座が始まりました。

先日の第3回目は「まずは情報発信してみよう!」という内容で、日記帳風に手軽に創れる「**ブログ**」というものが紹介されました。

野次馬根性のおおせいな僕は、早速挑戦してみました。方法は非常に簡単で、かつ無料のサイトがあり、いろいろ試しながら遊んでいます。

ここに掲載してきた「独り言」は、更新の度に「何を書こ

67

うか・・・」と悩むこともありましたが、「**ブログ**」では、ちょっとメモをするような気持ちで書けるので、日に1回は書き込みたい(今の希望・・・)と思っています。

ただ、内容的には「独り言」まで行かず、「こんにちは!」的な希薄なものになると思うので、このホームページの「独り言」も、これからも呟きたいと思います。

とりあえず、今回のこの「独り言」は、新しく誕生した(誕生させた?) **ブログ**の「**独り言**」を紹介しました。



68

2004年も年の瀬を迎えました。

「瀬」という言葉を、広辞林で見ると、「流れの、歩いて渡れるような浅い所。物事に会おう時期。」などの説明があります。

これから考えると「年の瀬」というのは、「1年を過ぎ、新しい年に渡るとはそんなに難しくないが、新しい年に出会うに際し、過ぎた月日を少し考えてみないか！」・・・と勝手に解釈して、独り言！

僕にとつてのこの1年は、まあマイペースで過ごせた年だと思います。（「気ままに過ぎ、勝手にそんなことを言つて・・・」

と非難の声はあると思いますが。）辛いことも、楽しいこともありましたが、これらは毎年のことと割り切つてのことです。

「泣いても一生、笑つても一生・・・では、笑わにや損！」といった気持ちで・・・

しかし世の中は、度重なる台風の上陸、多くの余震を伴った地震・・・今年の世相を象徴する漢字が「災」であるように、多くの方々が災難に会われました。心からお見舞い申し上げます。このような天災とは別に、人災的な事件がこれ以上に発生していません。

イラク戦争、児童の虐待、多発する強盗・窃盗・・・これらは、天災と違って、人の理性で防げる筈と思うのですが、残念な

がら多くなる一方です。
その外にも、人災的なものとして、地球温暖化など人間の欲で、自分の足元を自分で壊してもいるのです。

世相を象徴する漢字が「災」と発表した日本漢字能力検定協会では『『災いを転じて福となす』ことを祈るばかり』と結んでいるが、「祈るばかり」では福はこないと思うのです。天災に関しては、「祈るばかり」でも仕方ないと思うのですが、人災に関しては、何らかの対策があると思うのです。身近なことでは、地球温暖化を少なくすることから「庭にミドリを増やす!」、防犯対策として「戸締りを!」、来年は選挙が無いかも知れないが「お金に目が無い政治家には投票しない!」

71

とか・・・まずは「小さいことからコツコツと!」・・・人災の基になることはやらないよう努めたいものです。

今年一年「Chiaki's home」を愛顧いただきありがとうございました!

皆さんのさらなる健康を祈念するとともに、
来る新しい年もよろしく指導のほどをお願いいたします。

